



## 憧れの優しいピンクの服の人になるために頑張った高校3年生の夏休み

小さい頃は、自宅のそばにコープのお店があり、両親についてよく買い物に行っていました。コープのお店には試食がたくさんあるのが楽しみだったからです。時にはたくさん食べすぎて、怒られたことはありません。当時のコープの制服はピンク色で、いつしか「ピンクの服の人は優しい」と思うようになりました。

私の名前「球道」は、母の大好きな野球漫画から名付けられたので、高校時代の部活はもちろん野球部。ポジションはセカンドとサード。自転車通学で、通学路にはコープのお店があり、週に1回は自転車の空気入れを借りに寄っていました。部活帰りはお腹が空くので、空気を入れ終わると、お店に入ってすぐのベーカリーコーナーでパンを買って食べていました。店員さんはどなたもいつも笑顔だったことを覚えています。

高校3年生になり、学校の先生から「コープみやぎの就職試験を受けてみないか？」と勧められました。小さい頃の思い出もありコープみやぎに対して好印象を持っていたことや、学校の先輩方が多く働いていたこともあり、就職はコープみやぎ一本にすると決めました。夏休みから10月の試験まで本気で勉強した甲斐あって、私もピンクの服の人の仲間入りをすることができました。

インターシップを利用して、コープのお店で一日職場体験をした時、子どもの頃に感じた職場のあたたかい雰囲気を感じることができた。職員同士が笑顔で働いていて、お客さんからも「ありがとう！」と声をかけられ、名前で呼び合える。人と人とのあたたかさを感じられる仕事だと実感した。

それから4年、私は農産部門で主に「果物」を担当している。果物は、日常のご褒美であつたり、贈り物やお土産などに利用いただくことが多い。そんな場面に携われることはとても貴重なことだと感じる。組合員さんから、「梶田さんに相談して良かった！ありがとう！」と言われる瞬間は、とても嬉しくやりがいを感じる。ますます気持ちを前向きに「頑張ろう！」と思える。

季節に左右される果物の発注は、昨年のデータも考えながらの仕事で緊張するが、先輩方は「まずはやってみない！」とやりたいことに背中を押してくれる。「仕事を任せてもらっている」と感じ、とてもやりがいを感じる。

ある時は、コープの他の店舗で「小玉スイカ」がよく利用されていることを知り、思い切ってたくさん発注してみた。単にそのまま棚に置くのではなく、「キューブカット」にして食べやすいように工夫もしてみた。すると、2日間で200パックもご利用された。多くの組合員さんのご家庭で、私が準備した小玉スイカが食卓に並ぶことを想像できて、達成感と仕事への満足感を感じた。

もちろん失敗したこともある。昨年の利用データを参考にして多く発注したのに、予測が外れて利用されず、たくさん残ってしまった。「失敗した…」と叱られることを覚悟した。でもその時は、農産部門のサポーターが「予測通りにならないこともあるよ。そういうことも想定して、その後の計画を持っておくこと。利用されなかったときにどうするか？まで考えておくといییよ！」と、あたたかい言葉に救われアドバイスまでいただいた。

同級生の中には、人間関係で悩んで辞めたり、同年代の人がいなくて辞めたという話を聞きます。私自身は、仕事を任せてもらえて、「ありがとう！」の声がたくさん寄せられ、とても働きやすくて恵まれた職場環境にいると改めて感じます。

それと、これからの夢は新店舗の初代の農産部門マネージャーをやってみることです。まるつきりゼロベースからのスタートなので、固定観念なしにいろいろなことに挑戦できると思っています。自分の考えた品揃えや買い場づくりで組合員さんに喜んでいただける。考えただけでもワクワクしてきます。

これからも、一人でも多くの組合員さんに「ありがとう！」と喜んでいただけるように頑張っていきたい！そう思います。



# Kyudo Kajita

「まずはやってみない！」とやりたいことに背中を押してくれる組織風土  
いつか新店で自分の意思を込めた商品の品揃えや買い場づくりに挑戦したい！